

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 CL 千賀 義間 矢古宇 SL 田中ま (他会)

2. 山城/ルート 南八ヶ岳縦走 編笠山・権現岳・赤岳

3. 交通手段 自家用車 (千賀車・田中車)

4. 行動記録

<入山日 2017年 12月 29日 下山日 2017年 12月 31日>

12/28 JR 西宮 11:30 ⇒ 18:00 美濃戸口 J&N 泊

12/29 3:30 起床 4:40 ⇒ (千賀車で移動) 5:00 富士見登山口 5:30 → 網笠山 10:30 → 11:00 青年小屋(ハーネス装着) 11:30 → 14:30 権現小屋 テント泊

12/30 5:00 起床 7:30 → 9:20 ツルネ南峰 9:40 → 14:00 赤岳 → 16:00 行者小屋 テント泊

12/31 6:30 起床 8:15 → 11:00 美濃戸口 ⇒ (田中車で移動) 富士見登山口へ車回収 ⇒ 帰神 (JR 西宮 18:10)・帰東

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか?

予定のルートは、硫黄岳・東天狗岳を越え渋の湯までのプラン B、さらに高見石までのプラン C を計画したが、行動遅れにより赤岳までのプラン A の泊地変更 Ver (青年小屋・キレット小屋を、権現小屋・行者小屋へ) とした。

b) 事故に繋がりそうな要因 (ヒヤリハット) が発生したか?

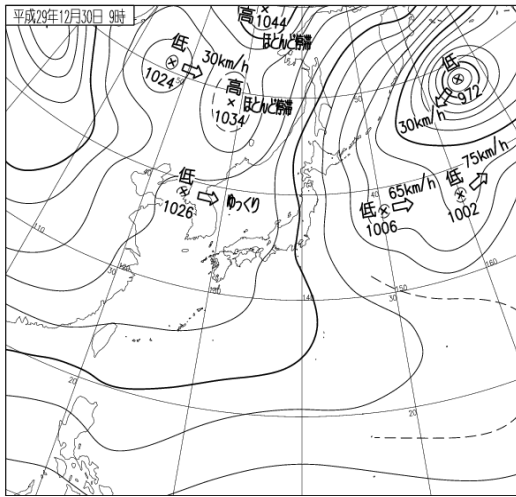
特になし。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか?

1. 固定ロープワイヤーに環付きカラビナで確保し、環が氷付き解除できず、強風の稜線で時間を要する。
2. ラッセル時に足のもぐりこみを少なくするために膝を雪に付け加重分散した際に隠れた岩に膝を打ち付ける。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

のろし場以降は一部を除き、森林限界を超えた稜線が続き、長時間低温・強風にさらされる。さらに泊地が限られエスケープルートが主稜線より厳しいルートであるため、進行の判断が重要である。樹林帯などでラッセル区間もあったが、概ね積雪は少なく持参したスノーシューやワカンを使用しなかった。多く場所で鎖・梯子が出ており、露岩の○マークもおおむね見える状況であった。積雪が増えるとトラバースやルートファインディングが厳しい状況になることが予想される。のろし場以降の泊地は、権現小屋・ツルネ南峰から北峰・キレット小屋周辺・赤岳本峰くらい。年末であったが縦走での入山パーティーは労山 1 パーティーと単独登山者 1 名と静か。そのほか出合小屋から天狗尾根→ツルネ東稜の 2 名、富士見→権現岳ピストンの 1 名はのろし場の強風で撤退。



ヤマテン 赤岳の気象予報情報

12/29	12:00	-11°C	23m/s	西北西
12/30	9:00	-17°C	22m/s	北西
12/30	12:00	-9°C	19m/s	北西

稜線通過時の天気図 縦縞の冬型（天気図から強風の状況がよくわかる。）



ツルネから阿弥陀岳・中岳・赤岳を望む



赤岳到着

報告者氏名 千賀義一 2018年1月2日